

## コロナ禍での妊娠・出産

後藤田歩美

### はじめに

2020年の2月末に妊娠が発覚した。新型コロナウイルス流行時にちょうど妊娠・出産を経験することになり、平常時とどう異なったのか、妊婦・産後目線でコロナとどう向き合ったか、文書として記していく。

### 1. 新型コロナウイルス感染による身体への影響

妊婦が感染した場合、どうなるのか。現時点（2021年1月）では国内において胎児異常や流産・死産の危険性が高まるという報告はないが、海外では早産・死産に至ったケースもある<sup>(1)</sup>。また妊娠後期の感染は肺が圧迫されている為重症化する場合がある。例が少ない為、身体への影響は専門家でもまだ分からない状態だと思われる。

### 2. 妊娠初期の状況（3月～5月上旬頃）

妊娠発覚頃にはコロナの感染がじわじわと拡大してきており、当時の職場では心配してくれる方もいたが、3月頭時点では大阪の感染者数はかなり少なく（3月1日の大阪府の累計感染者数は5名）<sup>(2)</sup>、私は普段通りの生活をしていた。

4月、大阪でも感染者数が増えてきた（4月1日の大阪府の感染者数は

- 
- (1) 一般社団法人 日本産婦人科感染症学会「新型コロナウイルス感染症（COVID-b 19）について 妊娠中ならびに妊娠を希望される方へ（2020/12/30 更新）」  
<http://jsidog.kenkyuukai.jp/images/sys/information/20201230133447-C12CD419B3E4D6D60B67804F941550A49D31DDD72A896AC2EF06427F81AA219B.pdf>（最終確認：2021年1月4日）。
- (2) 朝日新聞デジタル <https://www.asahi.com/special/coronavirus/osaka/>（最終確認：2021年1月4日）下段グラフの累計参照。

1日で34名、累計279名)<sup>(3)</sup>。3月29日に芸能人の志村けんが新型コロナウイルス感染による肺炎の為亡くなったことにより、「コロナは脅威」という価値観が日本全体に広がる。4月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県へ緊急事態宣言が発令されてからは、職場では毎日の体温・体調の記入、外出時は場所・同伴者の記入等が義務付けられた。会社は出勤人数を大幅に減らして対応することになり、私は週3日勤務だったのが週1~2日程度に変わった。感染拡大中は恐怖であったがこの頃はつわりが辛く、むしろ休みが増えてよかったのも事実である。

世界各地で早産や低出生体重児の割合が減ったという報告もある<sup>(4)</sup>。デンマークではロックダウン期間の2020年3月12日~4月14日と過去5年間の同時期を比較した際、28週以内で生まれた低出生体重児(2500g未満)の割合が約90%も減少していたという。またアイルランドのリムリック病院では、2020年1~4月間の低出生体重児の割合は過去20年間の同期間の平均出生数と比べ約73%も減少したと報告がある。明確な理由は不明だが、通勤のストレスや家族が外から風邪等を持ち込む可能性が減少したことで母体の負担を減らしたのではないかという見方がある。

### 3. 医療サービスの中止

通っていた産婦人科では妊婦健診の付添や入院中の面会が不可になった。4月7日の緊急事態宣言発令後は産院で行われる両親学級や産後マッサージ等も中止となった。いくつかの匿名掲示板サイトによると、感染者数に関わらず健診の付添・立ち合い出産・面会全て不可という産院が多い

---

(3) 同上。

(4) NEWSWEEK 日本版「ロックダウン中、世界各地で早産が激減していたことがわかり反響 調査が始まっている」  
<https://www.newsweekjapan.jp/stories/woman/2020/07/post-419.php>  
(2021/1/4 最終確認)。原文の記事は THE IRISH TIMES “*Has lockdown reduced the number of premature babies? This doctor thinks so*”  
<https://www.irishtimes.com/life-and-style/health-family/parenting/has-lockdown-reduced-the-number-of-premature-babies-this-doctor-thinks-so-1.4292612> (最終確認: 2021年1月4日)。

ようである。上の子が未就学児の場合、健診時に預け先を毎回探すのはとても大変だろう。面会不可についても、初産婦は不安、経産婦は上の子と暫く会えないのが寂しいという声が多い。他、自治体が開催している両親学級も軒並み中止となっているところが多く、全国で多くの初産婦が不安に思っていたものの、オンラインで妊婦教室や相談会を開催した助産師がいたり、沐浴動画を上げた産院があったり、テレワークやオンライン授業のような取り組みがこういったところでも見られた。

#### 4. 買い占め騒動

4月頃、マスクや消毒・除菌用品不足の為乳児用商品が買い占めされるという事態が起こった。ガーゼ類、哺乳瓶用の消毒液、おしりふき、母乳パッド(マスクシート目的)、赤ちゃん用体温計等、様々な商品が店頭や通販から消え去った。現在(2021年1月)はほぼ全商品回復しているが、10月頃までは「お一人様〇点まで」という注意書きをたいていの店で見かけた。私は10月予定日の為品薄に直撃しなかったが、今でも許せないし恐ろしい事態だった。

#### 5. 里帰り出産

4月16日に緊急事態宣言が全国に拡大されたのを受け、日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会は里帰り出産を控えるよう4月21日付でそれぞれ声明を出した<sup>(5)</sup>。帰省分娩を予約している妊婦であっても、現かかりつけ施設や予約済みの施設と相談し可能であれば居住地内で分娩するように、とのことであり、5月25日に緊急事態宣言が解除された後も依然としてそのスタンスである<sup>(6)</sup>。いろいろな産婦人科のHPを見る限り、里帰り出産は可能だが帰省後2週間の待機期間を要請している施設が多いよう

---

(5) 公益社団法人 日本産科婦人科学会「妊婦の皆様へ～“里帰り(帰省)分娩”につきまして」[http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content\\_id=11](http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=11) (最終確認:2021年1月4日)。

(6) 同上,「妊婦の皆さまへ」  
[http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content\\_id=13](http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=13) (最終確認:2021年1月4日)。

に見受けられる。今後の感染状況によっては帰省先の病院が受入れ不可になる可能性もある為、里帰り出産をする妊婦は常に不安な状態である（あった）と思われる。

## 6. 不妊治療

コロナは不妊治療にも影響を及ぼした。4月1日、日本生殖医学会より不妊治療の延期を推奨する声明が出された<sup>(7)</sup>。不妊の原因は様々であるが、年齢の影響は大きい。いつ収束するか全く見通しが見えない状況で延期を選択すること、迫られることは非常に辛い心境であったと思う。緊急事態宣言が解除されてからは5月18日付で同学会より、感染防御・感染拡大防止対策をした上で患者への十分な説明・同意等を条件に、不妊治療の再開を考慮するようにと新たな提言が発出された<sup>(8)</sup>。日付だけを見れば延期推奨から再開考慮になったスパンは短い、コロナによって今後の経済不安も重なり、これを期に治療を諦めたという夫婦も少なくないのではないかと。

## 7. 分娩前のPCR

6月17日、厚生労働省は無症状であっても不安を抱える妊婦に対し、分娩前にPCR検査費用を補助すると通知を出した。分娩予定日を概ね2週間以内に控える妊婦が対象で、かつ適切な検査体制、陽性と判明した場合の分娩施設や医療体制、産後のケア等がきちんと整備されているという条件がある<sup>(9)</sup>。分娩前のPCR検査については人によって判断が分かれるところである。というのも、もし陽性と判断された場合、①入院や宿泊療養・

---

(7) 一般社団法人 日本生殖医学会「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する日本生殖医学会からの声明（2020年4月1日版）」

<http://www.jsrm.or.jp/announce/187.pdf>（最終確認：2021年1月4日）。

(8) 同上、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する日本生殖医学会からの通知（2020年5月18日版）」<http://www.jsrm.or.jp/announce/195.pdf>（最終確認：2021年1月4日）。

(9) 厚生労働省「「寄り添い型支援」及び「不安を抱える妊婦への分娩前検査」の実施方法等について」<https://www.mhlw.go.jp/content/11920000/000653353.pdf>（最終確認：2021年1月4日）。

自宅療養になる②分娩施設変更③分娩方法変更（帝王切開や計画分娩等となる）④面会・立ち合い出産の制限⑤分娩後一定期間母子分離となる、という5つの可能性があるからである。負担の大きさを考えれば②③⑤に関しては特に避けたいところだろう。そうして大変な思いをして産んだ後、一定期間子に直接触れられないのは精神的な面で辛いし、直母がすぐにできないという不安要素もある。

国がPCR検査の公費負担を決める前に、先立って妊婦へのPCR検査を進めていたのが福井県と京都市である。福井県は4月22日、妊娠36週～39週までの妊婦を対象に、無症状でも主治医が必要と判断した場合検査を行うと発表していた（運用開始は4月24日から）<sup>(10)</sup>。

京都市も令和2年4月10日～令和3年3月31日までに受けたPCR検査費用の補助を出している<sup>(11)</sup>。また京都市が費用補助を出す前にいくつかの病院が先立って検査を実施する動きをしていたようである<sup>(12)</sup>。京都市内にある病院のHPをいくつか確認してみると、「PCR検査は強制」とは書いていないが、「出産間近の全妊婦さんにPCR検査を受けていただく」というニュアンスで記載されているので、恐らくかかる病院にいる全妊婦が受けているのだと思われる。医療従事者・赤ちゃんへの感染を防ぐ為とはいえ、半ば強制的に受けさせられるのは賛否が分かれるであろう。私は症状がない場合、受けたくないと考えていたし実際受けなかった。なぜならやはり上述したデメリットが大きい割にどうしても偽陽性の可能性があること、また安心の為に税金や医療リソースを使うことが嫌だったからだ。ただ、福井県や京都市が取り組みを始めた4月頃は「熱があっても検査をしてくれない」「保健所に全く繋がらない」等、検査をしたくてもしてもら

---

(10) NHKWEB「福井 「症状なくても妊婦のウイルス検査実施へ」 新型コロナ」  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200422/k10012400901000.html>（最終確認：2021年1月4日）。

(11) 京都市情報館 <https://www.city.kyoto.lg.jp/hagukumi/page/0000271172.html>  
（最終確認：2021年1月4日）。

(12) 京都新聞 「「全妊婦にPCR検査」動き広がる 産院が連携、体制整備」  
<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/232921>（最終確認：2021年1月4日）。

えないという声がメディアでよく取り沙汰されていた。そういった不安の中、症状がなくても検査してもらえるとというのは当時出産間近の妊婦にとって嬉しいニュースとなった可能性は高い。

## 8. 第一波を終えて

こうしてみると、流行第一波である3~5月頃がやはり一番物事が動いていた。7~8月頃に第二波が起り、またメディアは騒ぎ出した。私は6月末で退職をしたのもあり、それからはマスクと手洗いをするくらいであまりコロナを意識しない生活になった。この頃にはある種コロナを受け入れており、コロナ禍での妊娠生活が辛いと感じることは特段なかった。

## 9. 出産

10月末、無事子供を出産した。妊娠中はそこまでコロナを憎んでなかったが、産後これに苦しめられることになる。まず産後直後のマタニティブルー<sup>(13)</sup>がかなり酷く、入院中にしたエジンバラ<sup>(14)</sup>で危険な点数だったと家族経由で聞いた。1ヶ月健診時には大体の女性がほぼ通常状態に戻らしいが、症状が長引くと産後うつ病に移行する可能性があるという。私はもともと情緒不安定な気質があり、かつ慣れない入院生活が通常より長引いたこともあり、誰とも面会できず電話でしか話ができないのが辛かった。電話と対面では安心感が違うし、また別の妊産婦さん達と話をすることももちろんできなかった。

産後1ヶ月が経った12月初頭、少しマタニティブルーは続いていたが、退院後も毎週産院に通い主治医に話を聞いてもらったのと理解ある家族のおかげで多少精神が回復してきた。そして、「面会不可にもメリットはある」と入院中主治医が言っていた言葉を思い出した。それはアポ無し訪

---

(13) 産後、ホルモンの関係で意味もなく泣けてきたり落ち込んだり眠れなくなったりする状態のこと。産後女性の30~50%が経験すると言われている。

(14) エジンバラ産後うつ病質問票という、母親の精神状態を確認するチェックリスト。2週間健診・1ヶ月健診で行う。30点満点中9点以上をうつ病陽性とスクリーニングしているが、最終的には本人との面接で緊急度等を判断し今後のケアを考える。

問者や会いたくない人物と会わずに過ごせることだ。産後身体に相当なダメージを受けている中では苦手な人物に会うだけでストレスであるし、産褥期は精神面がかなり脆くなっている。面会不可のメリットについて、経産婦はそう思うのだろうかなどと当時は思っていたが、家族以外に子供を会わせた際にその言葉が身にしみた。少し持ち直した時だからこそ感情面も応対面も上手く処理できたが、入院中ならもっと酷く落ち込んでいたと思う。そして、こういった話やちょっとした育児のこと、また普通の雑談をしたいのに、コロナで子育てサロン等もほとんど閉鎖されており電話で保健師くらいしか話せる人がいない。オンラインサークル等もあるかもしれないが産後の今、探す気力もない。孤独に陥りやすい今、コロナで産後うつ病は増えたのではないかと強く思っている。

## おわりに

以上がコロナ禍での妊娠・出産の記録である。妊娠時にはそこまでデメリットを感じず、むしろ皆マスクと手洗い励行でコロナ以外の感染症や風邪にもかかりにくくなる等のメリットもあったと感じていた。しかしながら、産後これほどコロナがなければと思ったことか。誰かと会いたい時、親族であっても気軽に人と会えないことが辛い。特に高齢者には時間も少ないのに、会えない。今は一刻も早くコロナが収束し、子供と一緒に自由に出かけて、誰かと普通に会話をしたいと願う日々である。